

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年2月14日
【四半期会計期間】	第45期第3四半期（自平成24年10月1日至平成24年12月31日）
【会社名】	田辺工業株式会社
【英訳名】	TANABE ENGINEERING CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 四月朔日 義雄
【本店の所在の場所】	新潟県上越市大字福田20番地
【電話番号】	025(545)6500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼専務執行役員 事務部長 小野 彰
【最寄りの連絡場所】	新潟県上越市大字福田20番地
【電話番号】	025(545)6500(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役兼専務執行役員 事務部長 小野 彰
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第44期 第3四半期連結 累計期間	第45期 第3四半期連結 累計期間	第44期
会計期間	自平成23年4月1日 至平成23年12月31日	自平成24年4月1日 至平成24年12月31日	自平成23年4月1日 至平成24年3月31日
売上高(千円)	15,417,274	17,555,775	21,703,010
経常利益(千円)	306,474	824,799	496,075
四半期(当期)純利益(千円)	79,040	489,345	171,886
四半期包括利益又は包括利益 (千円)	26,522	513,342	76,578
純資産額(千円)	9,227,658	9,706,845	9,330,759
総資産額(千円)	18,612,464	19,562,738	17,927,701
1株当たり四半期(当期)純利益(円)	14.77	91.45	32.12
潜在株式調整後1株当たり四半期(当 期)純利益(円)	(-)	(-)	(-)
自己資本比率(%)	49.6	49.6	52.0

回次	第44期 第3四半期連結 会計期間	第45期 第3四半期連結 会計期間
会計期間	自平成23年10月1日 至平成23年12月31日	自平成24年10月1日 至平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益(円)	27.65	37.02

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しているため、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 連結売上高には、消費税等は含めておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

なお、従来、非連結子会社として取り扱ってききました田工商貿(上海)有限公司とタナベエンジニアリングシンガポール社は、当社グループ全体としての重要性が高まったため、第1四半期連結会計期間において連結子会社としました。

従って、当社グループは、当社(田辺工業株式会社)、及び子会社3社(連結子会社3社)により構成されております。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループ（当社及び連結子会社）が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、東日本大震災の影響による停滞を脱し、緩やかな回復が見られたものの、長引く円高や欧州債務危機による欧州経済の落ち込み、中国を始め新興国の減速等により、先行きは依然として不透明な状況が続きました。

設備工事業界におきましては、民間設備投資は回復傾向にあるものの、円高、電力不安等から設備投資は新興国を中心とした海外投資にシフトし、国内は依然として低調に推移しました。

このような状況下で、当社グループは受注の確保・拡大を図ってまいりました。設備工事業は大型プラント設備工事の受注や第1四半期連結会計期間より海外子会社2社を加えたため、前年同四半期を大きく上回りました。比較的経済が堅調のタイ国では、表面処理事業がHDD・自動車部品の好調により前年同四半期を大きく上回りました。この結果、受注高20,597百万円（前年同四半期比21.4%増）、売上高17,555百万円（同13.9%増）となりました。

利益面につきましては、実行予算管理を強化し利益確保に努めたことと、増収効果により、営業利益775百万円（同163.5%増）、経常利益824百万円（同169.1%増）、四半期純利益489百万円（同519.1%増）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

（設備工事業）

民間プラント・機械装置を主体としております産業プラント設備工事は、大型物件の受注並びに第1四半期連結会計期間から海外子会社2社を連結範囲に含めたため、受注高は前年同四半期を大きく上回りました。売上高も好調に推移いたしました。民間プラント保全工事を主体としております設備保全工事は、客先の修繕工事が回復し、受注高、売上高とも堅調でありました。電気計装工事は、客先の大型設備工事が少なく、受注高、売上高とも前年同四半期並みでありました。送電工事は、電力会社の設備投資が回復せず、受注高、売上高とも低調でありました。管工事は、公共施設の設備工事が減少し、受注高、売上高とも前年同四半期を下回りました。

この結果、設備工事業全体では受注高19,451百万円（前年同四半期比20.0%増）、売上高16,432百万円（同11.8%増）、セグメント利益991百万円（同80.8%増）となりました。

（表面処理事業）

タイ国で事業展開しております表面処理事業は、水害による停滞から脱し、自動車関連部品のメッキラインの生産が好調に推移し、受注高958百万円（同87.1%増）、売上高958百万円（同87.1%増）、セグメント利益129百万円（405.9%増）となりました。

（その他）

鑄造用工業炉は、自動車部品業界に回復の兆しがみられず、受注高187百万円（前年同四半期比23.9%減）、売上高164百万円（同18.9%減）、セグメント利益1百万円（同93.5%減）となりました。

(2) 財政状態及び経営成績の分析

財政状態の分析

(総資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は19,562百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,635百万円増加しました。

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末における流動資産の残高は14,695百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,592百万円増加しました。主に受取手形・完成工事未収入金及び、未成工事支出金の増加によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末における固定資産の残高は4,867百万円となり、前連結会計年度末に比べ42百万円増加しました。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末における流動負債の残高は8,823百万円となり、前連結会計年度末に比べ1,366百万円増加しました。主に短期借入金等の増加によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末における固定負債の残高は1,032百万円となり、前連結会計年度末に比べ107百万円減少しました。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産の残高は9,706百万円となり、前連結会計年度末に比べ376百万円増加しました。

この結果、自己資本比率は前連結会計年度末の52.0%から49.6%となりました。

経営成績の分析

売上高

当第3四半期連結累計期間の売上高は17,555百万円（前年同四半期比13.9%増）となりました。

売上総利益

当第3四半期連結累計期間の売上総利益は2,550百万円（同35.1%増）となりました。

売上総利益率は前年同四半期のような不採算工事の発生もなく14.5%（前年同四半期は12.2%）となり、2.3ポイント上昇しました。

販売費及び一般管理費

当第3四半期連結累計期間の販売費及び一般管理費は1,775百万円（前年同四半期比11.4%増）となりました。主な費用は従業員給料手当及び賞与引当金繰入額等であります。

営業外損益

当第3四半期連結累計期間の営業外損益（純額）は49百万円の収益（同304.9%増）となりました。

経常利益

当第3四半期連結累計期間は824百万円の経常利益（同169.1%増）となりました。

特別損益

当第3四半期連結累計期間の特別損益（純額）は12百万円の費用（前年同四半期比49.4%減）となりました。

四半期純利益

当第3四半期連結累計期間は489百万円の四半期純利益（前年同四半期比519.1%増）となりました。

1株当たり四半期純利益は91円45銭となりました。（前年同四半期は1株当たり四半期純利益14円77銭）

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、34,204千円であります。また、当第3四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

なお、連結子会社においては、研究開発活動は特段行っておりません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,000,000
計	16,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末現在 発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在発行数(株) (平成25年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	5,364,000	5,364,000	東京証券取引所 市場第二部	単元株式数100株
計	5,364,000	5,364,000	-	-

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式総 数残高(株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金増 減額(千円)	資本準備金残 高(千円)
平成24年10月1日～ 平成24年12月31日	-	5,364,000	-	885,320	-	1,475,320

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成24年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 5,350,100	53,501	-
単元未満株式	普通株式 800	-	-
発行済株式総数	5,364,000	-	-
総株主の議決権	-	53,501	-

(注)「完全議決権株式(その他)」の欄には、証券保管振替機構名義の株式が1,300株含まれております。また「議決権の数」の欄には、同機構名義の完全議決権株式に係る議決権の数13個が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
田辺工業株式会社	新潟県上越市大字 福田20番地	13,100	-	13,100	0.24
計	-	13,100	-	13,100	0.24

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に準拠して作成し、「建設業法施行規則」（昭和24年建設省令第14号）に準じて記載しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1【四半期連結財務諸表】
(1)【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,215,422	2,226,855
受取手形・完成工事未収入金等	9,991,851	10,980,226
未成工事支出金	410,157	934,636
その他のたな卸資産	155,961	163,838
繰延税金資産	250,852	252,236
その他	79,787	138,449
貸倒引当金	983	1,093
流動資産合計	13,103,049	14,695,149
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	3,937,180	3,987,678
機械、運搬具及び工具器具備品	2,118,779	2,233,968
土地	1,446,869	1,448,535
リース資産	99,872	102,320
建設仮勘定	19,190	289,002
減価償却累計額	3,761,363	3,958,583
有形固定資産合計	3,860,528	4,102,922
無形固定資産	97,824	101,386
投資その他の資産		
投資有価証券	534,344	320,895
繰延税金資産	234,715	242,336
その他	97,239	100,047
投資その他の資産合計	866,299	663,280
固定資産合計	4,824,652	4,867,588
資産合計	17,927,701	19,562,738

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形・工事未払金等	3,570,655	3,555,757
短期借入金	1,540,000	2,640,000
リース債務	19,553	17,687
未払金	1,049,675	1,415,683
未払費用	278,772	242,819
未払法人税等	262,270	165,138
未成工事受入金	57,933	239,892
完成工事補償引当金	20,654	22,385
工事損失引当金	1,000	3,000
賞与引当金	569,853	314,177
役員賞与引当金	34,000	27,000
その他	53,297	180,135
流動負債合計	7,457,666	8,823,676
固定負債		
長期借入金	210,000	105,000
リース債務	44,796	34,353
退職給付引当金	638,385	634,541
役員退職慰労引当金	246,094	258,322
固定負債合計	1,139,275	1,032,216
負債合計	8,596,942	9,855,893
純資産の部		
株主資本		
資本金	885,320	885,320
資本剰余金	1,475,320	1,475,320
利益剰余金	7,414,930	7,767,018
自己株式	6,507	6,507
株主資本合計	9,769,062	10,121,151
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,687	40,265
為替換算調整勘定	479,990	454,571
その他の包括利益累計額合計	438,303	414,306
純資産合計	9,330,759	9,706,845
負債純資産合計	17,927,701	19,562,738

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	15,417,274	17,555,775
売上原価	13,528,973	15,005,544
売上総利益	1,888,300	2,550,231
販売費及び一般管理費	1,594,078	1,775,041
営業利益	294,222	775,189
営業外収益		
受取利息	867	800
受取配当金	4,749	4,667
受取地代家賃	23,521	24,120
有価証券評価益	-	16,895
投資有価証券償還益	-	15,355
その他	18,643	17,529
営業外収益合計	47,781	79,368
営業外費用		
支払利息	13,487	15,002
コミットメントフィー	7,859	7,900
投資有価証券評価損	6,960	-
その他	7,221	6,855
営業外費用合計	35,529	29,758
経常利益	306,474	824,799
特別利益		
固定資産売却益	480	-
投資有価証券売却益	5,412	3,330
特別利益合計	5,892	3,330
特別損失		
固定資産処分損	818	2,870
固定資産売却損	13	1,553
投資有価証券評価損	30,656	11,890
その他	40	-
特別損失合計	31,528	16,314
税金等調整前四半期純利益	280,839	811,815
法人税等	201,798	322,469
少数株主損益調整前四半期純利益	79,040	489,345
少数株主利益	-	-
四半期純利益	79,040	489,345

【四半期連結包括利益計算書】
 【第3四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	79,040	489,345
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,230	1,421
為替換算調整勘定	104,333	25,418
その他の包括利益合計	105,563	23,996
四半期包括利益	26,522	513,342
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	26,522	513,342
少数株主に係る四半期包括利益	-	-

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

(連結の範囲の重要な変更)

第1四半期連結会計期間より、田工商貿(上海)有限公司とタナベエンジニアリングシンガポール社は、当社グループ全体としての重要性が高まったため、連結の範囲に含めております。

なお、当第3四半期連結会計期間においては該当事項はありません。

【会計方針の変更】

(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)

当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期連結会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産について、改正後の法人税法に基づく減価償却方法に変更しております。

これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期連結累計期間の営業利益、経常利益及び税金等調整前四半期純利益はそれぞれ2,953千円増加しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

(税金費用の計算)

税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。なお、当四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が四半期連結会計期間末日残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成24年12月31日)
受取手形	127,479千円	344,372千円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び前第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
減価償却費	235,506千円	237,951千円

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日至平成23年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	80,263	15.00	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年12月31日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配 当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	80,262	15.00	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	表面処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	14,701,875	512,362	15,214,238	203,035	15,417,274
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	-	-	-	-
計	14,701,875	512,362	15,214,238	203,035	15,417,274
セグメント利益	548,092	25,642	573,735	28,390	602,126

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである鑄造用工業炉事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	573,735
「その他」の区分の利益	28,390
全社費用(注)	307,904
四半期連結損益計算書の営業利益	294,222

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント			その他 (注)	合計
	設備工事業	表面処理事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	16,432,505	958,523	17,391,029	164,746	17,555,775
セグメント間の内部売上高又は振替高	460	-	460	-	460
計	16,432,965	958,523	17,391,489	164,746	17,556,235
セグメント利益	991,177	129,726	1,120,904	1,845	1,122,749

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントである鑄造用工業炉事業であります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,120,904
「その他」の区分の利益	1,845
セグメント間取引消去	39,465
全社費用(注)	387,025
四半期連結損益計算書の営業利益	775,189

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	14円77銭	91円45銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	79,040	489,345
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	79,040	489,345
普通株式の期中平均株式数(千株)	5,350	5,350

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月14日

田辺工業株式会社
取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 野本 直樹 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大島 伸一 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている田辺工業株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（平成24年10月1日から平成24年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（平成24年4月1日から平成24年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、田辺工業株式会社及び連結子会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。